

「靖国神社とは？何が問題なのか？」

昨年(2013年)の12月27日安倍首相が靖国神社に参拝した。そして「参拝の目的は不戦の誓いをするため」と語った。これに対して中国や韓国は激しく反発し、米国政府も「失望」を表明したほか、欧米のメディアも厳しく批判した。また世論調査では首相参拝に(共同通信) 反対 47.1%・賛成 43.2%となっている。

ところで靖国神社とは？どういう所なのか？何故、首相の靖国参拝が国際問題になるのか？を考えてみた。

靖国神社は「天皇のために戦って亡くなった人々の霊」を祀っている。それは1869年(明治2年)明治政府が戊辰戦争での官軍戦死者を弔うために東京招魂社が作られたのが始まりで、1879年(明治12年)に明治天皇の命で靖国神社と改名し、日清・日露戦争、日中戦争・太平洋戦争にいたる軍人・軍属の霊を祀っている。そのため吉田松陰や坂本龍馬は祀られているが、反政府軍の西郷隆盛や幕府方で戦った者たちは対象外となっている。

お国のために死ぬことは名誉なことだ！

戦時中は「国のために死ねば、靖国神社に祀られ、現人神である天皇陛下が参拝して下さる。それが日本国民として最高の名誉であり、喜びである」という意識が全国民に徹底的にたたきこまれた。その精神構造の頂点に靖国神社が存在した。こうして日本国民は「国のために天皇のために死ぬこと」を強要された。そして今の靖国神社にも、戦前の価値観がそのままいきている。

そこに安倍首相が参拝するという事は、過去の侵略戦争を肯定する立場に日本政府が立つことを内外に表明する行為といえる。日本の植民地にされ名前や言葉さえ奪われ、日本人になることを強要された韓国や北朝鮮、さらに国土を侵略され民衆を虐殺された中国から見れば、軍国主義日本が復活し再び外交問題解決の手段として「戦争」も選択することを表明されたことになる。



(靖国神社)

戦争責任をあいまいにした日本

東条英機元首相らの A 級戦犯 14 人も 1978 年に合祀された。この A 級戦犯にたいし「極東軍事裁判は戦勝国による一方的なもの」という意見もある。たしかにそういう一面はある。しかしもっとも大事なことは、日本人自らが誰も責任をとっていない？ということだ。

ドイツでは、ナチスを戦犯として永久追訴し過去から決別した。しかし日本は「一億総ざんげ」なる言葉をもって、天皇や日本軍指導部の戦争責任を問わずあいまいにした。そのために、いまだに過去の戦争を引きずっている。まさに日本人自らが戦争犯罪者を裁くことが必要なことだ。

また靖国神社は伊勢神宮などの神社本庁には所属していない。つまり一つの宗教団体といえる。そこに首相が参拝すること事態が憲法違反と言える。「国はいかなる宗教的活動もしてはならない」（憲法 20 条）

「英霊」にされた兵士たちの無念

また安倍首相は「国のために戦い、尊い命を犠牲にされた御英霊に対し、哀悼の誠を捧げる」との談話を発表した。

しかしその「英霊」たちはどのように死んでいったのか？太平洋戦争で戦没した日本軍人の約 230 万人のうち、6 割以上の 140 万人前後が戦闘行動ではなく、餓死もしくは飢餓による病死であった。また海外で眠る 113 万人の遺骨が未だに日本に帰ることができないでいる。

安倍首相が靖国神社に参拝することは、かつてこの国が若者たちに「死ねば神様になれる」と「生きながら爆弾になれ、魚雷になれ」と命じ 16.5%の命中率しかない特攻に送り込んだ行為を肯定することである。

また「生きて虜囚の辱めを受けず」の戦陣訓のために、どれだけの兵隊や民間人が自決に追いやられたのか？しかも命じた指導者たちは東条をはじめ自決もできず、のうのうと生き残った者たちが多数存在している。さらに中国大陸では「三光作戦」（殺しつくす、奪いつくす、焼きつくす）なる残虐行為が展開された。

それは当時の日本が補給を継続する生産力がなく、つねに短期決戦で作戦を立てたために、戦争が長引けば食料・兵器ともに補給はなくなった。そのため現地調達当たり前で、食料だけではなく、女性への陵辱や金品の略奪などがおこなわれた。そして、それさえ出来なくなれば多くの兵隊は敵の弾丸で亡くなるのではなく、飢えや病気で死んでいった。これは戦死ではない、まさに犬死であり、それを招いたのは当時の無能な日本軍指導者達である。まさに「英霊」として祀られるのは、死んでいった兵士たちにとっては不本意なものである。